

## 那須烏山市総合計画 基本構想（骨格案）

■ 那須烏山市総合計画・基本構想（骨格案）策定経過 と今後の策定スケジュール	1
■ 那須烏山市総合計画・基本構想（骨格案）	3
I まちづくりの基本理念のあり方	4
II 那須烏山市の将来像のあり方	
将来都市像	5
計画フレーム	7
都市構成の基本的な考え方	9
III 那須烏山市の重点課題のあり方	11
■ 参考資料：前提条件	13
■ 参考資料：プロジェクトチームにおける検討内容	25

平成18年9月

## ■ 那須烏山市総合計画・基本構想(骨格案)策定経過と今後の策定スケジュール

### (1) 策定経過

年 月 日	事 項
平成 18 年 4 月 6 日	総合計画策定方針の決定
6 月 5 日	第 1 回総括研究会 ・ 市民意向調査&中学生アンケートの実施について
6 月 14 日	第 1 回策定委員会 ・ 市民意向調査&中学生アンケートの実施について
6 月 19 日	第 1 回土地利用構想等策定プロジェクトチーム会議 ・ 総合計画・基本構想策定フローについて
7 月 5 日	第 2 回総括研究会 ・ 市民意向調査の回収状況について
7 月 12 日	第 2 回策定委員会 ・ 市民意向調査の回収状況について -
7 月 27 日	第 2 回土地利用構想等策定プロジェクトチーム会議 ・ 総合計画・都市マス・土地利用計画との連携について ・ 市民意向調査&基礎調査の結果概要について ・ 人口フレーム (案) について ・ 望ましい将来人口規模・人口減少抑制策の方向性について
8 月 2 日	第 3 回総括研究会 ・ 総合計画・都市マス・土地利用計画との連携について ・ 市民意向調査&基礎調査の結果概要について ・ 人口フレーム (案) について ・ 都市拠点のあり方について
8 月 8 日	市長ヒアリング 人口フレーム及び都市拠点のあり方について
8 月 9 日	第 3 回策定委員会 ・ 総合計画・都市マス・土地利用計画との連携について ・ 市民意向調査&基礎調査の結果概要について ・ 人口フレーム (案) について ・ 都市拠点の方針について
8 月 25 日	第 3 回土地利用構想等策定プロジェクトチーム会議 ・ 総合計画・基本構想 (骨格案) について
9 月 8 日	第 4 回策定委員会及び第 4 回総括研究会合同会議 ・ 総合計画・基本構想 (骨格案) について
9 月 定例議会	議会提示 ・ 市民意向調査の結果概要について ・ 総合計画・基本構想 (骨格案) について

## (2) 今後の策定スケジュール

(平成18年)

9月下旬 部門別まちづくり懇談会  
○ 基本構想（骨格案）提示

10月10日 総合計画審議会  
○ 基本構想（骨格案）提示

10月中旬 土地利用構想等策定プロジェクトチーム  
○ 基本構想（骨子案）の検討開始

11月上旬 策定委員会・総括研究会  
○ 基本構想（骨子案）の提示

11月下旬 総合計画審議会・部門別まちづくり懇談会  
○ 基本構想（骨子案）の提示

12月上旬 土地利用構想等策定プロジェクトチーム  
○ 基本構想（素案）の策定

(平成19年)

1月 総括研究会  
○ 基本構想（原案）の策定

2月 策定委員会  
○ 基本構想（案）の策定

3月 定例議会  
○ 基本構想（案）の提示

4月 総合計画審議会  
○ 基本構想（案）の諮問

4月～5月 パブリックコメント  
○ 基本構想（案）のパブリックコメント実施

7月 総合計画審議会  
○ 基本構想（案）の答申

8月 庁議  
○ 基本構想（案）の決定

9月 定例議会  
○ 基本構想の議決

■ 那須烏山市総合計画・基本構想（骨格案）

# I まちづくりの基本理念のあり方

## (1) 前提条件

### ① 関連計画 参考資料P14～P17

- 新市建設計画（平成 17 年 2 月）
- 前総合計画（旧 2 町）

### ② 全国的な動向 参考資料P17～P18

- これからのまちづくりや行政経営に求められること

### ③ 市民意向調査の結果 参考資料P20

- まちづくり・行政経営に関連する要望等：自由意見より

### 《 前提条件から導き出されるキーワード 》

- 協働によるまちづくり
- 多様な主体の参画：市民、市民団体、事業者、行政
- 住民が主役
- まちづくりはひとづくり
- 自律的な行財政の運営
- 無駄のない効率的な行政運営
- 身の丈に合ったまちづくり
- 文化・独自性・資源を活かしたまちづくり

## (2) プロジェクトチームにおける検討内容

### 《 まちづくりの基本理念のあり方について 》 参考資料P25

- 現実の直視
- 夢の提示
- 協働の意識の浸透
- 市民の主体性の喚起
- 市を創りあげる意識の浸透

## (3) まちづくりの基本理念（案）

※ “前提条件” 及び “プロジェクトチームにおける検討内容” をもとに想定される骨格案

【第 1 案】 身の丈に合った 協働による自立したまちづくり

【第 2 案】 多様な参画でつくる 自立のまちづくり

【第 3 案】 みんなの知恵による “自助” “共助” “公助” のまちづくり

## Ⅱ 那須烏山市の将来像のあり方

### 1 将来都市像

#### 1) まちの将来像

##### (1) 前提条件

###### ① 関連計画 参考資料P14～P17

- ・新市建設計画（平成 17 年 2 月）
- ・前総合計画（旧 2 町）

###### ② 市民意向調査の結果 参考資料P20～P21

- ・市民が誇れるもの・将来に活かすべき特色
- ・期待されるまちづくり

###### ③ 那須烏山市の地域資源・特性 参考資料P18

- ・豊かな自然環境
- ・歴史や文化
- ・産業
- ・交通
- ・都市構造
- ・人の動き

###### ④ まちづくりの課題 参考資料P19～P20

- ・時代の潮流への対応
- ・広域から求められる役割への対応
- ・市の特性等を踏まえたまちづくりの課題

###### ⑤ 人口フレーム（案）：後述 参考資料P23

- ・平成 29 年：30,000 人

##### 《 前提条件から導き出されるキーワード 》

- 美しい山や川（豊かな自然）
- 伝統・歴史・文化（独自性）
- 健康・福祉
- 子育てのしやすさ
- 買い物の利便
- 多自然居住
- 観光・レクリエーション
- 広域交流
- 人口減少の抑制
- 安全・安心
- 住みやすさ（定住環境）
- 働きやすさ（就業の場・通勤利便確保）

##### (2) プロジェクトチームにおける検討内容

###### 《 将来都市像（まちの将来像）のあり方について 》 参考資料P25

- 伝統・歴史・文化の重視
- 豊かな自然環境の重視
- 活力を育む視点の重視
- 地域資源を大切にす意識の重視
- 調和を図る意識の重視
- 住みやすさの強調

##### (3) まちの将来像（案）

※ “前提条件” 及び “プロジェクトチームにおける検討内容” をもとに想定される骨格案

【第 1 案】「自然」と「文化」と「活力」が調和した暮らしやすいまち

【第 2 案】 豊かな暮らしを育む “人・自然・文化” のまち

【第 3 案】 輝く水と緑に 文化の薫る 元気な暮らしの広がるまち

## 2) 行政の将来像

### (1) 前提条件

#### ① 関連計画 参考資料P14～P16

- ・新市建設計画（平成17年2月）

#### ② 全国的な動向 参考資料P17～P18

- ・これからのまちづくりや行政経営に求められること
- ・行財政改革の推進

#### ③ 財政状況 参考資料P18

#### ④ 市民意向調査の結果 参考資料P20～P21

- ・行政経営に関連する要望等：自由意見より
- ・市民のまちづくりへの参加に対する関心
- ・参加してみたいまちづくり活動

#### 《 前提条件から導き出されるキーワード 》

- 自律的な行財政の運営
- ムダ・ムラ・ムリのない行政（経営資源の効率的配分）
- 協働によるまちづくり（市民、市民団体、事業者の参加や協働の仕組み）
- 行政経営の評価（施策の目標の明示・市民による評価）
- 透明性の高い開かれた行政（情報公開、市民ニーズの把握）
- 市民に必要とされる行政サービスの提供（施策の重点化・優先順位の明確化）
- 職員能力の発揮

### (2) プロジェクトチームにおける検討内容

#### 《 将来都市像（行政の将来像）のあり方について 》 参考資料P26

- 自律的な行財政の運営を目指すもの
- “もったいない”を意識した無駄のない経営を目指すもの
- 市民に必要とされる行政サービスの提供を目指すもの
- 健全な財政運営を目指すもの
- 協働によるまちづくりを目指すもの
- 透明性の高い開かれた行政を目指すもの
- 職員・市民など人を活かすことを目指すもの
- 市民の主体性の醸成を促すもの

### (3) 行政の将来像（案）

※“前提条件”及び“プロジェクトチームにおける検討内容”をもとに想定される骨格案

【第1案】市民の目線に立ち 市民に開かれた ムダ・ムラ・ムリのない行政

【第2案】市民活動を支える めりはりの効いた 新たな行政

【第3案】適切な経営資源の活用による 持続可能な行政

## 2 計画フレーム

### 1) 人口フレーム

#### (1) 前提条件

##### ① 広域的な人口動態 参考資料P22

- ・我が国における人口の推移
- ・栃木県内における人口の推移

##### ② 本市の人口の推移と予測 参考資料P22

- ・本市の自然増減・社会増減（平成16年～平成17年）
- ・本市人口の推移（過去20年）
- ・本市の将来人口の予測（基本推計）

##### ■ 本市の将来人口の予測（基本推計） 参考資料P22

- ・平成17年：31,151人 ⇨ 平成29年：27,600人  
（自然動態と社会動態を考慮したコーホート要因法による）

##### ③ 本市の人口増加に関する考察 参考資料P23

- ・市民意向調査結果からの検討
- ・定住・増加を促す年齢層の検討
- ・就業者の流出入傾向と企業アンケートからの検討
- ・周辺開発等からの検討

#### (2) プロジェクトチームにおける検討内容

※ “本市の人口増加に関する考察” を踏まえた施策の展開を前提にシミュレーションした目標人口「29,000人」「30,000人」「31,000人」のケースにより検討

《 将来人口の設定について 》 参考資料P26

- 市制施行要件である、下げ幅を可能な限り抑制した30,000人を将来人口に設定することで一致

#### (3) 人口フレーム（案）

※ “前提条件” 及び “プロジェクトチームにおける検討内容” をもとに想定される骨格案

**【目標人口】 平成29年：30,000人**

条件：若年層や子育て層の定住・増加をより高めることを想定（転入増・転出減）

政策ボリューム：基本推計に比べ平成29年までに合計1,700人分の社会増を誘導する必要性

## 【目標人口「30,000人」の確保に向けた施策の方向性】

※プロジェクトチームによる検討

### 《社会動態（増加促進）》

- ・持ち家志向を有するファミリー層を主体とした定住促進  
：周辺市町に就業する人の住む場所の提供、地価の安さのPR、民間事業者・土地を求め  
る人に対する支援等の魅力を高める付加価値の付与 等

### 《社会動態（減少抑制）》

- ・就業の場・通勤の利便性の確保（就業先に通いやすい環境づくり）  
：鉄道・道路交通網の充実、就職先の確保 等

### 《自然動態（増加促進）》

- ・子どもを産んで育てる環境の充実  
：結婚（晩婚化対策）、出産（晩産化対策）、子育て支援の充実、特色ある教育環境の充  
実 等

### 《自然動態（減少抑制）》

- ・医療費のかからない元気で生きがいのある高齢者づくり  
：高齢者福祉の充実、元気で働ける高齢者づくり 等

## ※参考：新規に必要な住居系開発面積の検討

### 【必要な住居系面積設定の前提条件】

- ・増加人口：1,700人（目標人口実現に向けた社会増人口）
- ・人口定着のターゲット：子育て層
- ・人口定着のシナリオ：子育て層の流入促進
- ・1世帯当たり人員：3.22人（平成17年）～4.00人
- ・分譲地1戸当たり面積：ゆとりある住宅地としての付加価値を有する100坪と設定  
（周辺市町の動向と比較しての優位性を確保）
- ・道路・公園の公共用地率を25%と設定

### 【必要な住居系開発面積】

- 増加人口1,700人を確保に向けた約430～530世帯の定住に必要なボリューム  
：約19ha～24ha
- 既存住居系開発地区における余力（売残区画：約270区画）を考慮した約160～260世  
帯の定住に必要なボリューム 　：約7ha～12ha

### 3 都市構成の基本的な考え方

#### (1) 前提条件

##### ① 関連計画 参考資料P14

- ・新市建設計画（平成 17 年 2 月）：新市の土地利用構想

##### ② 市民意向調査の結果 参考資料P21

- ・土地利用の方向性（新市建設計画において示された将来の土地利用構想）

##### ③ まちづくりの課題 参考資料P19～P20

- ・広域から求められる役割への対応
- ・市の特性等を踏まえたまちづくりの課題

##### ④ 人口フレーム（案） 参考資料P23

- ・平成 29 年：30,000 人

#### (2) プロジェクトチームにおける検討内容

※ “(参考資料) 土地利用構想素案” により検討

##### 《 将来都市構造について 》

- 新市建設計画に示される都市構造イメージ図を土台として検討を進めることで一致

#### (3) 将来都市構造（案）

##### 【将来都市構造の基本的な考え方】

##### ■ ゾーン

##### ● にぎわいと文化の清流ゾーン

中心市街地のにぎわいと活力づくり、歴史と伝統により育まれた地域文化の継承と文化資源としての有効活用を図るゾーン。地域の生活文化や清流の自然などの暮らしの中から生まれた文化を大切に、都市機能の集積により都市活動や居住の拠点としての機能を強化する。

##### ● 豊かな暮らしの丘ゾーン

将来の活力ある都市づくりのための居住機能・産業機能の強化・育成を図り、公共公益機能の集積を活かしながら、暮らしやすい環境形成を図るゾーン。丘陵の自然環境と調和した、那須烏山の魅力と豊かさを感じられる定住促進機能を強化する。

##### ● 活力あふれる交流の里ゾーン

丘陵の自然や交流機能の魅力を活かしつつ、居住機能・産業機能の強化・育成を図るゾーン。生活・産業や観光・レクリエーションなどのさまざまな交流による活力づくりを支援する。

##### ● 自然とふれあう八溝の森ゾーン

広域的な観光・レクリエーション機能を活かし、那須烏山の魅力を感じられる交流拠点形成を図るゾーン。

■ エリア

● 都市活動拠点エリア

新庁舎等の行政機能を含めた都市拠点の配置、駅や公共公益施設の集積を活かし、市全域を対象とした都市活動全般の中核として機能するエリア。中心市街地の活力や地域の文化資源などにより市のシンボルとなる都市環境形成を図る。

● 都市生活拠点エリア

丘陵の自然と調和し、活力と交流に満ちた定住拠点形成を支援するエリア。公共施設等のストックを活かしつつ、福祉・教育・文化・スポーツ・近隣商業などの都市生活を支援する機能の集積を図り、定住促進の拠点とする。

■ 軸

● 都市軸

都市活動や広域都市連携などの基幹として、市の交通体系の骨格を構成する軸。

● 活力軸

広域的な開発動向を活かしつつ、定住促進や産業振興など、将来に向けての活力づくりを支援する軸。

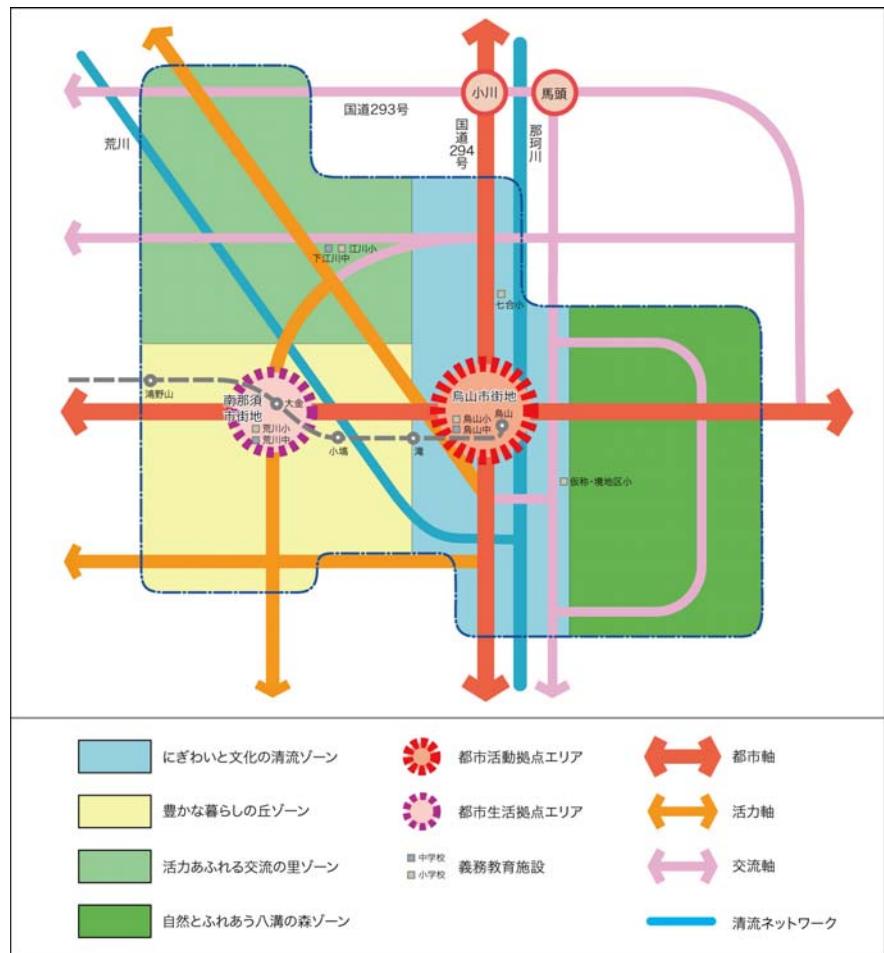
● 交流軸

市域内及び周辺とのネットワーク形成により、生活・産業・観光などのさまざまな交流を支援する軸。

● 清流ネットワーク

清流の沿川における広域的な観光・レクリエーションネットワークの一翼を担う地域として、魅力ある軸の形成と交流機能の強化を図る。

■ 将来都市構造イメージ図



### Ⅲ 那須烏山市の重点課題のあり方

#### (1) 前提条件

##### ① まちづくりの課題 参考資料P19～P20

- ・時代の潮流への対応
- ・広域から求められる役割への対応
- ・市の特性等を踏まえたまちづくりの課題

##### ② 市民意向調査の結果 参考資料P21

- ・まちづくりに対する評価：市民の施策に対する満足度・重要性の把握

##### ③ 人口フレーム（案） 参考資料P23

- ・平成 29 年：30,000 人

#### 《 前提条件等から導き出されるキーワード 》

- 那須烏山市のへそ（拠点）づくり
- 人口減少の抑制・定住化の促進
- 快適な生活環境・生活基盤づくり
- 交通ネットワークづくり
- 医療・健康・福祉のまちづくり
- 子育てしやすい環境づくり
- 安全・安心に暮らせるまちづくり
- 伝統・文化の次代への継承
- 働く場や賑わいの環境づくり
- 自然環境の保全・循環型社会の形成
- 交流環境づくり
- 徹底した行財政改革の実行
- 自律的なまちづくり・協働によるまちづくり

#### (2) プロジェクトチームにおける検討内容

##### 《 那須烏山市の重点課題のあり方について 》 参考資料P27～P28

- “那須烏山市の拠点づくり”
- “人口減少の抑制・定住化の促進”
- “快適な生活環境・生活基盤づくり”
- “交通ネットワークづくり”
- “医療・健康・福祉のまちづくり”
- “子育てしやすい環境づくり”
- “安全・安心に暮らせるまちづくり”
- “伝統・文化の次代への継承”
- “働く場や賑わいの環境づくり”
- “自然環境の保全”
- “交流環境づくり”
- “徹底した行財政の改革”
- “自律的なまちづくり・協働によるまちづくり”
- “子どもの教育環境の充実”
- “都市構造・土地利用構想から想定されるもの”

### (3) 重点課題（案）

※ “前提条件” 及び “プロジェクトチームにおける検討内容” をもとに想定される骨格案

#### 【豊かな自然にまつまれた暮らしやすく訪れやすいまちの実現】

- 定住をうながすまちづくり
  - 定住促進・支援施策の充実（土地利用の誘導、都市基盤の充実、定住支援の充実 など）
  - 通勤利便性の向上（JR利用環境の充実、幹線道路網の充実 など）
- 誰もが移動しやすいまちづくり
  - 市内連絡道路の充実
  - 市内循環交通手段の充実
- 安全・安心なまちづくり
  - 交通安全対策の充実
  - 防犯対策の充実
  - 消防防災対策の充実
- 快適な生活環境の整ったまちづくり
  - 汚水処理基盤の充実
  - 魅力ある街並み景観の形成
  - 情報通信環境の充実

#### 【健康で安心して暮らせる人にやさしいまちの実現】

- 安心して子どもを産み育てられるまちづくり
  - 総合的な子育て支援施策の充実
- 誰もが健康で福祉のゆき届いたまちづくり
  - 保健・医療・福祉施策の充実

#### 【個性と魅力ある教育・文化環境を育むまちの実現】

- 次代を担う子ども達を育むまちづくり
  - 義務教育施設の統合再編
  - 人間力を育てる特色ある教育環境づくり
- 那須烏山の伝統・文化をつなぐまちづくり
  - 歴史・文化拠点の形成（東山道・長者ヶ平の活用）
  - 文化・スポーツ拠点施設の整備充実

#### 【21世紀にふさわしい産業・雇用を育むまちの実現】

- いきいきとした賑わいと交流のまちづくり
  - 中心市街地の活性化
  - 企業誘致の促進
  - 八溝の森ゾーンの活性化
  - 都市軸を活用した交流拠点の形成

#### 【自然や資源を大切に守り次代へつなぐまちの実現】

- 環境にやさしいまちづくり
  - 環境基本条例の策定
  - 総合的なごみ処理対策の推進

#### 【行政経営】

- 行財政改革のすすむまちづくり
  - 本庁方式への移行促進と行政のスリム化
  - 義務教育施設の効果的な跡地利用の推進
  - 徹底した行政改革の実行
  - 広域行政の改革
  - 協働によるまちづくりの推進

■ 参考資料：前提条件

## (1) 関連計画

### ① 新市建設計画（平成 17 年 2 月：南那須町・烏山町合併協議会）

#### 〔基本理念〕

##### 『健全な行財政基盤の確立による、自律したまちづくり』

- ・適正な社会基盤の整備
- ・徹底した行財政改革の断行

##### 『真の住民自治の確立による、住民が主役のまちづくり』

- ・多様な主体の参画と協働による住民主導のまちづくり
- ・人と人との結びつき（コミュニティ）の活用

#### 〔将来像〕

##### 『“自然”と“やさしさ”と“知恵”を育む、暮らしやすいまち

～活力とやすらぎの交流文化都市「那須烏山市」

#### 【人々の暮らしぶりのイメージ】

- ・“豊かな自然” “健康” “安全・安心” “田舎の良さ” “便利な生活”

#### 【新市の姿のイメージ】

- ・“産業と暮らし・自然の融合” “都市と農村の交流” “新たな知恵・文化の創造”

#### 〔新市の土地利用構想〕

#### ■ ゾーン

##### 『那珂川沿川ゾーン』

- ・国道 294 号と那珂川を中心に、広域行政施設や公共公益施設が集積する烏山市街地・豊かな田園・集落が広がるゾーンであり、生活・行政などの都市機能を担う水辺の地域としての位置づけ

##### 『丘陵親緑ゾーン』

- ・ふるさとの原風景である谷津田と平地林が広がるゾーンであり、自然環境の保全を基本に、観光・歴史遺産・レクリエーション機能等を活用した親緑の地域としての位置づけ

##### 『丘陵共生ゾーン』

- ・主要地方道宇都宮烏山線や J R 烏山線が走り、多くの公共公益機能が集積する南那須市街地や宅地化の進行するゾーンであり、自然と共生した定住や企業立地を促進する地域としての位置づけ

##### 『八溝森林保全ゾーン』

- ・福島・茨城・栃木の 3 県に広がる八溝山地の一部にあたるゾーンであり、自然環境の保全を基本に、常陸大宮市などの奥久慈方面との観光的な連携を促進する地域としての位置づけ

## ■ エリア

### 『都市拠点エリア』

#### － 南那須市街地 －

- ・新市西部の生活拠点、主要地方道宇都宮烏山線・J R 烏山線による宇都宮方面との連携拠点、宇都宮圏域の求心力を活かした定住促進の中心拠点、丘陵地における農業体験型観光・レジャーの拠点としての位置づけ

#### － 烏山市街地 －

- ・新市東部の生活拠点、市域レベルでの行政機能と商業機能の中核、広域交通（国道 294 号、主要地方道宇都宮烏山線・烏山御前山線、J R 烏山線）連携拠点、観光促進を図る自然交流エリアの拠点、定住促進サブ拠点としての位置づけ

### 『生活拠点エリア』

- ・日常生活の利便性や地域コミュニティ活動の向上を図る地域の中心拠点としての位置づけ（鉄道等の交通の要衝）

### 『産業拠点エリア』

- ・質の高い就業の場、都市活力の強化につながる生産機能を担う新市の中心的な産業拠点としての位置づけ

### 『交流拠点・自然交流エリア』

- ・歴史文化資源や多様な交流資源（自然休養村、県立自然公園等）を学び、体験・ふれあい・憩い・健康づくりなどを通じた地域活性化を担う交流空間としての位置づけ

## ■ 軸・ネットワーク

### 『都市基軸』

- ・国道 293 号・294 号、主要地方道宇都宮烏山線・烏山御前山線など、生活や経済、観光面などの動脈として機能する広域性の高い道路

### 『都市幹線軸』

- ・主要地方道烏山矢板線・那須黒羽茂木線・常陸太田烏山線・宇都宮向田線、一般県道小川大金停車場線・八溝グリーンラインなど、新市と近隣市町を結び、新市の都市活動を支える主要道路

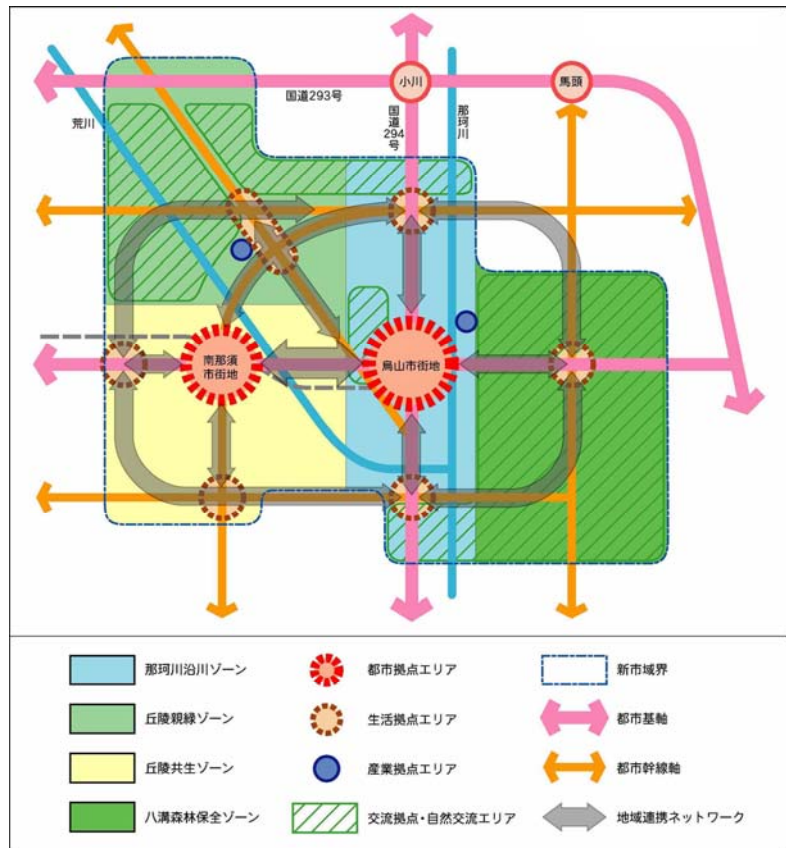
### 『地域幹線軸』

- ・主に都市基軸・都市幹線軸を補完する主要道路

### 『地域連携ネットワーク』

- ・南那須市街地と烏山市街地がそれぞれ不足する都市機能を相互に補完する I T などの高度な情報環境の構築 等

■ 新市都市構造イメージ図



② 旧南那須町 総合計画（平成 13 年）

[基本理念]

『みんなで夢を創り、夢をつなぐ町政』の推進

- 広く町とかかわりを持つ人たちが力を合わせて「夢」の実現に取り組み、「夢」を次の世代さらに次の世代へと着実に引き継いでいく。
- 住民や行政が垣根を取り払い、一緒になって地域を支え、地域と地域がお互いに連携しながらスクラムを組んでより良いまちを創っていく。

『住民からはじまる、住民が主役のまちづくり』の推進

- 社会的なバリアを無くし、それぞれの個性や能力に応じ自由に地域づくりに参画し、持てる力を発揮できる「住民」が主役になれる環境づくり
- 地域からの発想や地域の個性、文化や資源を大切に育てながら、地域らしさを追求していく取り組みの実践

[将来像]

『“心豊かな田園文化都市”』

[まちづくりの方向性]

- 宇都宮地域への近接性を活かした定住都市、産業創出補完都市
- 八溝、那珂川沿川地域と連携した広域観光地の一角を担う農村型観光地

### ③ 旧烏山町 総合計画（平成13年）

#### [基本理念・哲学]

『私たちはひとづくりをまちづくりの基本に据えます』

- ・ 安心して暮らしやすいまちを築く時代を牽引する人・思いやりのある人の育成

『私たちの自然、風土を大切にします』

- ・ 本町のアイデンティティ（独自性・個性）と言えるかけがえのない自然・風土との共生

『私たちは感動が共有できる文化の薫るまちづくりに取り組みます』

- ・ これまでの文化の醸成と新時代にふさわしい新たな価値観の創造によるまちのシンボルとなる文化の育成

#### [将来像]

『“人と自然と文化がふれあう町”』

#### [まちづくりの方向性]

- ・ 広域行政機能を軸とした定住機能、観光機能、産業経済機能のバランスがとれた南那須地域の中心都市
- ・ 城下町としての歴史文化、風情や景観を大切に魅力ある街並み景観を有する歴史文化都市

## (2) 全国的な動向

### ① これからのまちづくりや行政経営に求められること

『身の丈に合った自律的な行財政の運営』

- ・ できるだけ無駄を省いた行政需要に対応した効率的な行政運営
- ・ 小さな行政による質の高いサービスの提供

『新しい公共の創造』

- ・ 新しい公共（行政だけに委ねない公共）の創造
- ・ 市民、市民団体、事業者、行政による協働体制の創出

『行政のスリム化』

- ・ 行わなければならない事務事業の範囲の見直し
- ・ 民間でできるものは民間に委ねるといった方向性の明示

『管理から経営へのスタンスの変更』

- ・ “執行管理- 何をどれだけつくり、どれだけつくったか” から “経営戦略- 何をめざすのか、どれだけ達成できたのか” へのスタンスの変更
- ・ 民間企業の発想や経営手法の導入

『ストック管理・活用型まちづくりへ』

- ・ “拡大型まちづくり” から “ストック管理・活用型まちづくり” への転換

『手続き重視から成果重視への転換』

- ・ 行政活動の達成目標の明確化と一定の基準を持った継続的な評価の実施
- ・ 行政の施策・事業に対する市民満足度の把握

## ② 行財政改革の推進

### 『行政評価システムの導入』

- ・政策・施策の重点化、市民と行政による政策・施策の実施・評価、事務事業のスクラップ&ビルド、職員の意識改革、市民に対するアカウンタビリティ

## (3) 那須烏山市の地域資源・特性

### ① 豊かな自然環境

- ・八溝山系の里山、那珂川・荒川、龍門の滝 等

### ② 歴史や文化

- ・山あげ祭、山あげ会館、いかんべ祭、東山道跡、長者ヶ平遺跡、烏山和紙 等

### ③ 産 業

- ・農業（稲作や畜産が主。近年は園芸・観光農園・直売所が盛ん。）
- ・林業（八溝材・徳用林産物の生産が盛ん。）
- ・工業（昭和 50 年代に誘致等。出荷額等は低迷。宇都宮テクノポリスセンター地区に近接。）
- ・商業（地元購買・集客力の低下、宇都宮方面への流出、中心市街地空洞化 等）
- ・観光（景観・観光・文化・都市農村交流資源・自然レクリエーション資源が豊富 等）

### ④ 交 通

- ・首都東京まで 2 時間程度：高速道の最寄り IC まで 1 時間程度
- ・県都宇都宮まで 40km：（主）宇都宮烏山線・J R 烏山線で接続

### ⑤ 都市構造

- ・那珂川・荒川を主軸、2 都市核を中心とした「2 極分散型」の都市構造

### ⑥ 人の動き

- [通勤・通学] 地域内 59%。宇都宮に依存。
- [通院・入院] 地域内通院 6 割。入院 3 割。
- [地域購買] 宇都宮に依存。

### ⑦ 財政状況

- ・三位一体の改革の影響（地方交付税の削減、国庫補助負担金の廃止縮減 等）による厳しい歳入確保（一般財源の減少）
- ・少子高齢化等の影響による扶助費及び医療費への繰出金の増加、合併特例債等による投資的経費・公債費の増加がみられる歳出
- ・増加を示す経常収支比率（財政の弾力性を失いつつある状況）

#### (4) まちづくりの課題

##### ① 時代の潮流への対応

###### [少子高齢・人口減少への対応]

- ・保健・医療体制の充実、多様な健康・福祉サービスの展開 等

###### [社会経済の変化]

- ・農林業の進化、雇用機会の創出、地域に密着した産業の育成 等

###### [地域社会の変化]

- ・地方分権にふさわしい規模・体制の整備 等

###### [環境の世紀]

- ・自然環境の保全、循環型社会の形成 等

###### [高度情報ネットワーク化]

- ・情報通信の活用、情報格差拡大への対応 等

##### ② 広域から求められる役割への対応

###### [第5次全国総合開発計画等]

- ・多自然居住地域の創造
- ・観光・レクリエーション機能の充実

###### [とちぎ元気プラン]

- ・那珂川沿川地域の自然・歴史・文化を活かした交流の展開
- ・他県と境を接する県際地域としての広域交流・連携の強化

##### ③ 市の特性等を踏まえたまちづくりの課題

###### [広域連携]

- ・都会・高速交通網に近接する地理的優位性の活用
- ・宇都宮広域生活圏としての機能の一層の強化
- ・那珂川町との広域行政連携や周辺部との連携の強化

###### [都市構造]

- ・都市核の充実、核と地域とのネットワークの充実

###### [生活環境]

- ・安定した上水道供給、汚水の適正処理による水環境保全
- ・豊かな自然の保全と活用
- ・災害等の少ない穏やかで安全・安心な生活環境の維持
- ・豊かな自然、安全安心な地域特性に根差した住環境の整備

###### [健康・福祉・医療]

- ・一層の保健・医療体制の充実、多様な健康・福祉サービスの展開
- ・誰もが実感できる安全・安心なまちづくり

#### [教育・文化]

- ・人づくりの重視、教育改革への対応など一層の教育充実
- ・豊富な歴史文化資源の保全・活用、健康増進に資するスポーツ活動

#### [産業]

- ・新事業の創出、都市農村交流による観光振興（農林業との連携）
- ・地元に密着した福祉・介護等のサービス業等の育成
- ・自立的・内発的な地域経済の再構築
- ・中心市街地の再生、賑わいの回復、地域雇用機会の充実 等

#### [行政経営]

- ・住民による各種の社会貢献活動・地域づくりの活発化
- ・積極的な行政情報の提供、行財政運営への住民参加の拡大
- ・行政サービスの充実、健全な行財政基盤の確立
- ・実効性ある行財政改革の継続的な推進 等

### (5) 市民意向調査の結果（平成18年6月実施）

#### ① まちづくり・行政経営に関連する要望等：自由意見より

##### 『まちづくりに関連する要望』

- ：目先の利益にとらわれない長期的な視野に立ったまちづくり
- ：市独自の特徴（誇れるもの、自然・伝統）を持ったまちづくり
- ：時代の要求を踏まえた柔軟なまちづくり（箱物行政からの転換） 等

##### 『行政経営に関連する要望』

- ：住民一人ひとりが参加するまちづくり
- ：税収に見合った行政サービスの実施
- ：無駄の節約（不必要な事業等への出費の削減、ムダ・ムラ・ムリのない行政）
- ：市民のアイデアや意向把握の取り組みの充実
- ：市職員（人件費）の削減
- ：市職員のスキル（専門的知識・能力）の向上
- ：市の情報公開の充実（市民に透明な行政）
- ：厳しい財政を踏まえた早急に対応すべき事業（少子高齢への対応等）の明確化
- ：市民のアイデアや意向把握の取り組みの充実
- ：市民が行政サービスを利用しやすい環境づくり
- ：行政サービスの民間委託の検討 等

#### ② 市民が誇れるもの・将来に活かすべき特色

##### 『“美しい山や川などの自然資源”』

- ：中高年層に美しい自然資源を重視する意識

##### 『“伝統ある祭りや独自のイベント”』

- ：若い世代に伝統や独自性を大切にする姿勢

### ③ 期待されるまちづくり

『“豊かな自然環境につつまれた誰もが安心して健康に暮らせるまちづくり”』

：子育て世代の望む“明るく健やかな子どもが生まれ育つ子育て環境の充実”

： “誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり”を望む高齢者層

： “買い物の利便性の向上”を求める若い世代

### ④ 市民のまちづくりへの参加に対する関心

『約6割の人が那須烏山市のまちづくりへの参加に関心』

： 年齢層が高まるにつれ参加意欲に高まり（高齢者層で約7割）

### ⑤ 参加してみたいまちづくり活動

『地縁的なつながりの強い身近な活動に高い参加意向』

： 若い世代において高い“地域の伝統的な行事”への参加意向

： 中高年層において高い“自治会などの地域活動”への参加意向

### ⑥ 土地利用の方向性（新市建設計画において示された将来の土地利用構想）

『約8割の人が将来の土地利用の方向性について“ふさわしい”と感じている』

： 約8割の人が“那珂川沿川ゾーン”“丘陵親緑ゾーン”“丘陵共生ゾーン”“八溝森林保全ゾーン”全ての土地利用イメージを妥当と判断

### ⑦ まちづくりに対する評価：市民の施策に対する満足度・重要性の把握

『継続的な取り組みが期待される施策・那須烏山の良いところ』（納得度：高、重要度：高）

： “安全な水の安定した供給”“適切なおみ収集や処理”“消防・防災体制”

『これからのまちづくりにおける重要な課題・早期の問題解決が望まれるところ』

（納得度：低、重要度：高）

： “自家用車に頼らない移動手段”“子育て・仕事の両立の支援体制”“安心して子どもを生み育てられる環境”“障害をもった人の暮らしやすい環境”“行政改革の取り組み”

『緊急性や必要性などを検討すべき課題』

（納得度：低）（重要度：高）

： “救急医療”“犯罪に巻き込まれる心配の少ない環境”“商店街再生のための取り組み”

『暮らしやすさの評価を分けるポイント』

： “快適に暮らせる住環境”“交通安全”“快適な情報通信環境”“企業の誘致や大学等と連携した産業の創出”“便利に買い物のできる商業施設”

## (6) 人口フレーム

### ① 広域的な人口動態

#### 『我が国における人口の推移』

- ・平成12年から平成17年の人口増加率：0.7%（戦後最低）
- ・日本総人口は予想よりも早く減少局面に転換

#### 『栃木県内における人口の推移』

- ・平成12年から平成17年にかけて増加傾向  
：国道4号・東北新館線・東北本線の軸上の宇都宮市など14市町
- ・平成12年から平成17年にかけて減少傾向（減少率5%以上）  
：本市（減少率5%）を含む県東地域の5市町

### ② 本市の人口の推移と予測

#### 『本市の自然増減・社会増減（平成16年～平成17年）』

- ・自然増減：202人減（県内で3番目の減少数）
- ・社会増減：181人減（県内で3番目の減少数）

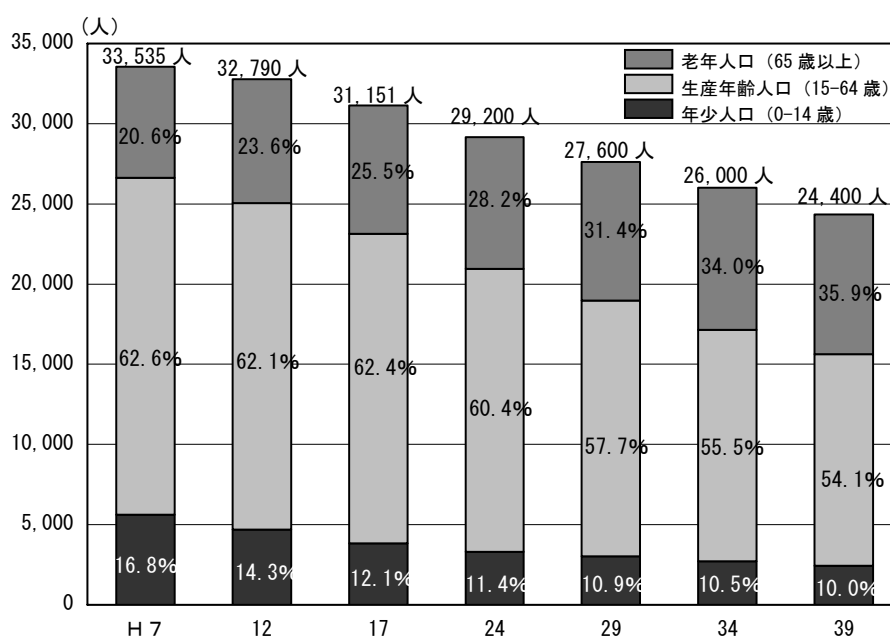
#### 『本市人口の推移（過去20年）』

- ・微減傾向からここ10年で明確な減少傾向（国機関の予想値を下回る減少幅）
- ・婦人子ども比が平成7年を境に県平均を下回る状況

#### 『本市の将来人口の予測（基本推計）』

- ・平成17年：31,151人 ⇨ 平成29年：27,600人  
（自然動態と社会動態を考慮したコーホート要因法による）

#### ■ 本市の将来人口の予測（基本推計）



### ③ 本市の人口増加に関する考察

#### 『市民意向調査結果からの検討』

- 就業の場の確保・通勤のしやすさの向上による人口の減少抑制・増加に期待
- 市民のプライドでもある“豊かな自然や文化”を活かした施策の展開が10代・20代の将来的な人口流出を抑える上で重要

#### 『定住・増加を促す年齢層の検討』

- 10代・20代の転出者に対する進学・卒業後のUターンを促す呼び戻し施策が重要
- 定住地としての需要の高い（30代からの転入が多い）旧南那須町における子育て世代の定住を促す施策が重要

#### 『就業者の流出傾向と企業アンケートからの検討』

- 本田技研工業（株）の施設が立地或いは立地していく高根沢町・芳賀町・さくら市を就業先とする市民の増加に期待
- 市内企業（生産・研究・開発機能の強化の意向）においても就業機会の増加に期待
- 就業者の居住地として通勤しやすい環境づくりや良好な生活環境の提供などの施策展開が重要

#### 『周辺開発等からの検討』

- 近隣市町に比べ十分リーズナブルな住宅コスト、新たに整いつつある宇都宮方面を結ぶ交通環境を活かした施策の展開が重要
- 旧南那須町南部における、清原工業団地・芳賀高根沢工業団地・宇都宮市街地等への良好なアクセス環境を付加価値とした住宅供給施策が重要

### ④ 目標人口

#### ■ 平成29年：30,000人

- 市制施行を背景とした必要条件を満たすための努力目標
- 新市建設計画における人口の見通し（平成26年：29,000人）を1,000人超

#### [人口減少の抑制策]

- 若年層や子育て世代の定住促進
- 就業の場の確保
- 通勤の利便確保の必要性



■ 参考資料：プロジェクトチームにおける検討内容

## (1) まちづくりの基本理念のあり方について

### ● 現実の直視

- 身の丈をしっかりと把握する。
- “自律”の意識を持つ。

### ● 夢の提示

- 行政的にも財政的にも最終的な夢である“自立”を目指すべき。
- 目標人口 30,000 人の実現に向けた積極的な姿勢を示す必要あり。

### ● 協働の意識の浸透

- 協働のまちづくりが理想。
- 市民と行政の役割分担を明確化する。
- 調和（バランス）の図られた協働が大切。

### ● 市民の主体性の喚起

- 市民主体のまちづくりを全面に出す。
- 市民自らが取り組む姿勢を強調する。
- 市民一人ひとりが市をまもるといった認識を広げる。
- (高齢者も含めた) あらゆる市民の知恵によるまちづくりを。

### ● 市を創りあげる意識の浸透

- 市民と行政の協働で創る。
- “自助（市民一人ひとり）” “共助（ボランティア・NPO）” “公助（行政による手助け）” の3つで支え合いながら市を創り上げる。

## (2) 将来都市像（まちの将来像）のあり方について

### ● 伝統・歴史・文化の重視

- 伝統・歴史・文化の視点を大切にする。

### ● 豊かな自然環境の重視

- 美しい自然を守る。

### ● 地域資源を大切にする意識の重視

- 今あるものを大切にする姿勢を持つ。

### ● 住みやすさの強調

- “住みやすさ”の視点を加える。
- 災害などの少ない特性から“住みやすいまち”を強調する。
- “安らぎ”を求める。

### ● 調和を図る意識の重視

- “人と自然と文化がふれあうまち”が良い。
- “発展させるべきもの” “まもるべきもの”を明確化する。
- “豊かな自然は守りたいし家は建てたいし工業は誘致したい”が本音。

### ● 活力を育む視点の重視

- “産業と自然の調和”や“歴史と文化”が活力につながるような表現を用いる。
- “財源の豊かさ”といったニュアンスにも触れる。（“滞納のないまち”）

### (3) 将来都市像（行政の将来像）のあり方について

#### ● 自律的な行財政の運営を目指すもの

- 自律的な行財政の運営を重視すべき。
- 行政経営の評価を行う。

#### ● “もったいない”を意識した無駄のない経営を目指すもの

- 経営資源の効率的な配分に努める。

#### ● 市民に必要とされる行政サービスの提供を目指すもの

- “施策の重点化”や“施策の優先順位の明確化”が大切。

#### ● 健全な財政運営を目指すもの

- “借金から抜け出す”といったニュアンスにも触れる。

#### ● 協働によるまちづくりを目指すもの

- 行政の行うべきものと行わないものとの棲み分けを明確にする。（“No と言える行政”であるべき。）

#### ● 透明性の高い開かれた行政を目指すもの

- “情報公開”や“市民ニーズの把握”に努める。

#### ● 職員・市民など人を活かすことを目指すもの

- 職員や市民の持つ能力をまちづくりに活用する。

#### ● 市民の主体性の醸成を促すもの

- “自分達で出来るものは自分達で”といった市民の意識やコミュニティを醸成すべき。

### (4) 将来人口の設定について

※ “本市の人口増加に関する考察”を踏まえた施策の展開を前提にシミュレーションした目標人口「29,000人」「30,000人」「31,000人」のケースにより検討

- 社会全般の人口減少の傾向を踏まえると 28,000 人のケースもあり得る。
- 右肩上がりの目標人口の設定は過去の計画策定の考え方であり、現在は右肩下がり如何に少なく抑えるかが主流である。
- 人口が 30,000 人以上いたから市になったという経緯もあり、必要条件である 30,000 人については努力目標として維持すべき。
- 高齢者比率の高まりを抑えるには若い世代を呼び込む必要もある。
- “新市建設計画”においては主要指標の見通しとして平成 27 年で 29,000 人を想定。
- 現実的な目標の線として 29,000 人～30,000 人といったところが妥当。
- 人口減少抑制に向けては、宇都宮市との近接性や生産機能の強化を図る企業の意向等を見据えながら、清原工業団地等に通う世帯の増加や若い人の定住を促していく必要がある。

#### ● 市制施行要件である、下げ幅を可能な限り抑制した 30,000 人を将来人口に設定することで一致

## (5) 那須烏山市の重点課題のあり方について

### ● “那須烏山市の拠点づくり” について

- “本庁方式への移行促進”や“中心市街地の活性化”については合わせて考えていく必要があるのではないか。
- “中心市街地の活性化”については“商工振興ビジョン”の策定による方向性の明確化が必要ではないか。
- “魅力ある街並み景観の形成”を重点課題に位置づけるべきではないか。
- 行政本庁舎機能の配置によってはコンパクトシティや街なか居住の考え方の導入など、高い効果が期待できるのではないか。

### ● “人口減少の抑制・定住化の促進” について

- “定住の支援（周辺市町に就業する人の住む場所の提供、民間事業者や土地を求める人に対する支援等）”“通勤利便の確保（鉄道・道路交通網の充実、就業先の確保等）”に重点的に取り組む必要があるのではないか。

### ● “快適な生活環境・生活基盤づくり” について

- “下水道基盤の整備”“ごみ処理施策”が重要ではないか。
- “汚水処理適正化構想”の策定により汚水処理対策（下水道整備・浄化槽の設置等）の方向性を明確化する必要があるのでは。
- “環境基本条例の策定”“広域清掃センター対策”を重点課題に位置づける必要があるのではないか。
- “住宅施策”についても検討すべきではないか。

### ● “交通ネットワークづくり” について

- “道路軸の整備”“バス・J Rの利用環境の向上”が重要ではないか。
- “循環バス・相乗りタクシー・市営バス”等の公共交通に対する市民の要望は強い。
- 主要な駅の利用利便向上を重点課題に位置づける必要があるのではないか。
- 将来の都市構造を踏まえた“道路再編整備計画”を策定するべきではないか。

### ● “医療・健康・福祉のまちづくり” について

- 市民要望の非常に高い“障害者や高齢者が暮らしやすい環境づくり”“保健福祉基盤の整備”等については重点的に取り組むべきではないか。

### ● “子育てしやすい環境づくり” について

- 市民要望の非常に高い“総合的な子育て支援対策”については重点的に取り組む必要があるのではないか。

### ● “安全・安心に暮らせるまちづくり” について

- 市民要望の高い“交通安全対策”“防犯対策”等を重点課題に位置づけるべきではないか。

### ● “伝統・文化の次代への継承” について

- 市内の重要な歴史・文化資源を活かした“交流拠点”づくりに重点的に取り組む必要があるのではないか。

### ● “働く場や賑わいの環境づくり” について

- “企業の誘致”“中心市街地の活性化”等を重点課題に位置づけるべきではないか。

### ● “自然環境の保全” について

- 棚田・山びこの湯・東小学校などを活用した観光施策を検討する必要があるのではないか。
- 観光施策の展開にあたっては商工観光課や関係各課との連携等による“観光振興ビジョン”を策定し、方向性を明確に示す必要があるのでは。

● “交流環境づくり”について

- “道の駅”や“東山道・長者ヶ平”を活用した施策の充実が必要ではないか。

● “徹底した行財政の改革”について

- “行政のスリム化”を図るためには“本庁方式への早期移行”が重要なポイントとなるのではないか。
- 本庁方式への移行に伴う主要公共施設の活用方策として、ボランティア・外郭団体等の拠点としての利用が検討できないか。

● “自律的なまちづくり・協働によるまちづくり”について

- “まちづくり基本条例の制定検討”を重要な課題とすべきではないか。

● “子どもの教育環境の充実”について

- “義務教育施設の統合再編と跡地利用対策”について重点的に取り組む必要があるのではないか。
- 定住促進につながるような“特色ある教育環境づくり”が必要ではないか。

● “都市構造・土地利用構想から想定されるもの”について

- 両市街地の機能分担による“教育・文化サービス機能”“定住機能”“健康・福祉機能”の配置や“文化・スポーツ拠点施設の整備”について検討する必要があるのでは。